

防災功労者一覧

平成30年7月13日
生活環境部防災局

| 功労者氏名 | 住所 | 災害名 | 功労内容 |
|------------------------|------|--------|---|
| 1 フジイ タカユキ 藤井 隆幸 | 日田市 | 九州北部 | 防災士としての知識を生かし、市が避難勧告等を出す前から、独自判断により防災無線端末から各世帯の個別端末に情報を伝達し、自主避難を促した。 大鶴地区上宮町集落（39世帯102人）の住家の約7割に被害があった中、人的被害をゼロに押さえることに貢献。 |
| 2 イシマツ サトミ 石松 聡美 | 日田市 | 九州北部 | 特別支援学校職員と連携し、孤立集落内で投薬が必要な2人（うち1人は、てんかん発作症状）の児童生徒について、薬を手配し、自衛隊に届けてもらうことなど、児童生徒の命を救うための取組に貢献。 |
| 3 ハラダ キョウコ 原田 京子 | 日田市 | 九州北部 | 食事提供のボランティアとして、13日間にわたり自費で食事を提供。その後、市から一部食材費の支給があったが、計1ヶ月間にわたり、献立を考えて食事を提供し、被災者（特に、高齢者）の食事面でのストレス軽減に貢献。 |
| 4 キタグチ ツネオ 北口 常雄 | 日田市 | 九州北部 | 日田市小野の椰野（なぎの）地区の孤立解消に向け、仮設道路設置のための合意形成において、地権者と県との調整に積極的に取り組み、仮設道路の早期開通に貢献。 |
| 5 マツナガ ケンヤ 松永 鎌矢 | 日田市 | 九州北部 | 災害発生直後から市社協ボランティアセンターの運営を支援、同センター閉鎖後は、民間支援組織「ひちくボランティアセンター」の立ち上げに中心となって取り組んだ。その後、自ら市の「地域おこし協力隊員」となり、その後も継続して、被災者・被災地の再生に貢献。 |
| 6 カンダ カツユキ 神田 勝之 | 津久見市 | 台風第18号 | 天候や避難者の健康に配慮し、臨機に避難所を移動するなど、避難者の安全確保を図った。また、道路の全面不通の間は、自らの船舶で避難者等へ物資搬送を行うことで、避難所の遠方移動する必要がなくなり、避難所を移動することに伴う高齢者のストレス軽減に貢献。 |
| 7 タツミ ヤスノリ 翼 保宣 | 津久見市 | 台風第18号 | 元消防分団長（団員歴32年）の経験を生かし、避難勧告の前から避難を促すとともに、避難所が床上浸水した際には、高齢者（3人）を誘導し、避難所を変えるなどの対応を行った。また、地区内の災害廃棄物二次集積場設置ではリーダーシップを発揮し、全110世帯の合意を得るなど、迅速な廃棄物処理に貢献。 |